



4歳児の保育室の壁面に飾られている「誕生日表」の一部。

四月当初、4歳児クラスの担任となつたA先生は、「一年間、子供たちが、楽しいことをいっぱい見つけ自分の中の好きをいっぱい膨らませてほしいな」と、願いました。「それに4歳児は遊びのイメージがどんどん広がる時期。見立て、想像する楽しさ、友達の思いやイメージに触れる面白さを、沢山味わってほしいな」とも願いました。

子供「おだんごもどうぞ」
やりとりしながら、準備して
いた素材を登場させます
所々に穴を開けたフェルト
紙類、ストロー。あおむし
モールが穴を通るたびに、「
もぐもぐ、おいしいな」と保育者。
今度は子供たちも、それぞれが好きなモール
と選び、試し、ありの素材をおなかをいいっぱいにして
いきます。見立てはどんど
ん広がります。「私は（あ
おむし）ご飯が大好き」と
言つた女兒のあおむしは、白やピンクの発泡材をいくつも貫通していま
した。

そこでA先生は遊びの後の時間を少し使って、子供たちが大好きだった絵本「はらぺこあおむし」をモチーフに、緑色モビルをあおむしに見立て、子供たちとやりとりを楽しんでみることにしました。先生「ぼく（あおむし）、おなかぺこぺこー」「いちご食べる？」

「誕生日表をつくろうつて、子供たちとはいつ共有したのですか?」「子供には実は誕生日表をつくろうとは言つていません。それよりもイメージに浸つて遊ぶ楽しさを味わう時間として、そこを大切に計画しました。」

先生 「普段の遊びに何か影響しましたか?」
「自分なりに環境に関わり遊びを見つける姿が増えたと 思います。モールを素材に通じていくといふことも、子供たちにとつては新鮮だつたようで、素材との関わり方という面でもいろいろと広がつたように感じました。」
あおむしになりきる子供や虫探しに夢中になる子供だけではなく、保育室にある素材に自分なりに関わり、見立て、そこから自由にイメージを広げていろんな遊びをつくる子供が増えたといふことでした。

保育者のことがすごい ～環境への試行錯誤～

ばかりの視線を保育者に送つてきたり、同じ4歳児同士でネームの見せっこをしたりする光景も決して珍しくあります。子供なりに互いの成長を感じ合い、今この時をまつすぐに喜んでいる姿は、保育者だから出合える瞬間でもあります。そんな中、「四月の誕生日表づくり」は、当然、法令化されたものではないので、必ずつくるものではあります。しかし、子供の生活を中心と居家、自己肯定

感を育むことを大切にしている幼児教育の現場では、一人の誕生日を一年間掲示して、ちよつとしたお祝いをするなどの取組を行っているところが多いと思います。本事例の園では、二十数年前までは、三月頃に保育者が製作し、新年度に合わせて保育者が飾るという取り組み方だつたようです。保育雑誌に掲載されている型を切り抜きそれを掲示するやり方です。「登園日までに掲示し終えなければ」そんな合言葉もあつたとか。確かに、既成の型を生かした可愛らしい動物やお花で飾るよさもあるでしよう。でも、これで本当に子供たちの生活は豊かになつていると言えるのだろうか。環境を通して行う教育つて、こういう細部を再考するのが大切だと思う。様々な問い合わせ保育者の中に起きました。保育者の試行錯誤は今も続いています。遊びが充実することは、子供の生活が豊かになることです。

保育者のここがすごい
環境への試行錯誤

四月は、学年が上がり、子供たちみんなが胸を躍らせて登園する時期です。胸につけていたネームの色が、年少から変わったことがそれはもう誇らしくて「ほら見て」と言わん

右の2次元コードを読み取るか
クリックで回答をお願いします



発行元
お問合せ先

山形県教育局義務教育課

023-630-3416 kura

※1：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用